



NPO法人認証と展望

特定非営利活動法人(NPO法人)
新潟県山野草をたずねる会・植生研究会

理事長 小日向

孝

NPO法人
新潟県山野草をたずね
る会・植生研究会機関紙
第19号
会員数125名(12/1現)
事務局
長岡市下条町1406-6
理事長
小日向 孝
TEL・FAX 23-1317
印刷
(有)佐藤印刷所
TEL 32-0681

(樹医博士・環境カウンセラー・環境教育・環境学習インストラクター)

十月二十三日午後五時五十六分の中越地震で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。一日もはやく平常な生活に回復されることを願っています。

新潟県山野草をたずねる会(新潟県植生研究会)は、昭和五十七年十一月、産業の発展と高度経済成長に伴なつた環境の悪化と失われていく地域の緑と自然、そして荒れる人々の心と様々な問題行為の中、自然を翻弄した人間の愚かな行為と荒れる人々の心を何としてでも改めなければと願いました。環境破壊と心の崩壊は同根であるという認識で、環境保全といのちと心を育む教育の推進をめざして発足しました。以降、植物の生きざまに学ぶをテーマに『健康で心豊かな潤いのある生活の追求』と『環境保全といのちと心を育む教育』を柱に活動をしてきました。健康と潤いの追求では、食薬用植物、キノコ等の自然の恵み体験をしました。環境保全と心の教育面では、ふるさとの木によるふるさとの森づくりで蒼紫の森、八方台植樹等のいのちの森(ふるさとの森)の再生活動、また、環境教育では、学校の森づくりの協力支援、人づくりと地域やまちづくりの推進等自然と共生する活動に取り組んできました。個人のボランティアと共に組織としての社会貢献活動の信用性、信頼性、持続性、資金確保と活動内容の深化発展を期したいとの願いからNPO法人化移行(賛同者百九名)を三月二十八日の総会で決定しました。目的、活動の種類、事業の種類、定款等の検討をして七月一日付で法人化申請を行いました。この度当会は、二十数余年の活動が評価され、十月十二日付で新潟県知事より『特定非営利活動法人(NPO法人)新潟県山野草をたずねる会・植生研究会(The Conserve Native Forest Organization in Niigata)』として認証されました。これまでの活動を基盤に公に社会貢献団体として社会的な人格をいたいたいた訳です。会が衣替えをするに当たり、理念と活動が多く

戦後、日本社会は、自然破壊と心の崩壊や社会秩序の崩壊傾向を招いてしまいました。物質的な豊かさと豊かな食生活の中にどっぷりと浸り、全てのものの命がつながりあって成立していることを忘れてしまっています。便利さと快樂を追い求め、履き違えられた自由が自然と一体化した心と畏敬の念や耐える力の欠如を生み、ひいては、躊躇や基本的生活習慣の崩れ、更に、いじめ、登校拒否、甘えと依存、体験不足、自分本位の行動と凶悪行動等否めない事実です。人類が健全に存続し発展し続けられる持続可能な平和な社会の構築は今世紀の最大の課題であり、その構築は、人間や全ての生物の生活にとって良好な環境が基盤にあつてはじめて可能と考えます。良好な環境とは、人間を含む全ての生物の生命の母体である地域の潜在自然植生が生育する緑豊かな本物の自然環境です。このことは、四大世界文明発祥地の『文明の前に豊かな森』があつて、文明の後に砂漠(緑も人の心も)が残つた』の歴史が物語っています。

環境破壊が原因と思われる悲劇が世界にも日本にも多く見受けられ、七・一三水害は天災ではなく人災と考えます。

このかた人々が豊かな生活を求めたあまり、地域の自然を破壊してしまった結果、自然の安定能力に耐えられなくなり、自然が人々に怒りを現し、人々の自然を翻弄することへの警鐘であります。天災は防ぐことはできませんが被害を最小限に防ぐことはできます。被害を最小限に防ぐことのできるもの、それは、一つに自然の脅威を認識し、人間は自然の一員なのだと理解と認識で自然と共生する人間のエゴを捨てた実践行動が必要だと考えます。

二つに日頃の心構えといざと言うことを念頭においていた生活の心得と実践で命を守ってくれる真の共生者としての地域の潜在自然植生が生育する命の森=ふるさとの森で、地震にも火災にも強い本物の緑の環境をつくることです。

三つに他力本願ではなく、自分の命は自分で守るという姿勢で自分が生きていくのに必要な酸素を放出してくれる樹木十六本を生やし、育て、植え、共に生きるという実践行動が必要だと考えます。

今、求められていることは社会的にも教育的にも自然と共生する環境保全の実践行動と命と心の教育です。私たちは、掛け替えのない地球環境を確かなものとして未来に引き継ぐ責務があります。文化を創造しボテンシャルを残す本物のふるさとの自然の回復と命と心を植え育て、地域や地球環境の保全、自然と調和するまちと人をつくる。人々が永く健康で心豊かな潤いのある平和で幸福な生活が送れる持続可能な社会づくりに取り組み、癒しと安らぎ、安定、安心の場やものとして、足元からの環境づくりを確かなものにしていきたいと思います。

植物の言葉を読む

角山 正博

「もつと水が欲しい」、「少し寒いから温度を上げて！」等々の植物の言葉を読み取る装置が出来ないものかと思い、植物が発している信号を測り始めてから四年程になります。柏崎から寺泊にかけての海岸線に沿つた松林が無残に枯れているのを見て、もつと早い段階で対応する方法はないものかと考えてこの実験に着手しましたが、始めてみてその難しさを痛感させられています。静かにじつと同じ場所に留まつている植物も、実際に信号を測定してみると活発に活動していることが解ります。現在は温度が変化した時や明るさが変わった時の信号の変化をある程度読み取ることは難しく、その他の刺激との関連については殆ど解らないのが現状です。

植物の言葉を読み取るためににはもつと植物に接し、植物を知ることが必要だと感じてこの会に入会させて頂きました。森の再生と共生という会の趣旨からはかなりはずれますが、植物に対する想いは趣旨に通じるものがあると思いつますので、出来るだけ植物に接する機会を多く持ち、皆様から植物についていろいろ教えて頂きたいと思っています。宜しくお願ひいたします。

早春の山野草をたずねる会兼総会

値千金、春の宝石

若山 章子

三月二十八日、晴天に恵まれ、正午には気温二十℃近くまで上がる汗ばむ陽気の中、「早春の山野草をたずねる会」が行なわれた。

先ず体慣らしに、国上山に登つた。

ふくらみ始めたばかりの木の芽の愛らしさ、丸裸の凛とした立木の姿、木肌の美しさにしばし観とれる。

車を降りた一行は、小日向先生を先頭に藪の中へ分け入つて行く。「こんな藪の中に何があるのかな」枝を払いながら後に続いた。

「ワアーすごい、誰か言つてた、あの『春の宝石』雪割草の群生だ。ずっと向うの方から、こっちの方まで一面に咲いてる。こんなのは初めてだ。靴で踏まないよう歩くのも難しい。春先生の短い一時、この時を競うようにどの花も輝いて咲いている。今日は本当によかつた。」
「ありがとう」と一人つぶやく。ノツボの椎の木、薮椿の太木、こと決めてしつかり根を張つて春風に悠々と枝を揺らしていた。冬をしのぎ、与えられた時を感じて一気に花開く早春の草花から、明日への元気をもらえた気がする。

春の息吹きを全身で感じた大満足の一
日。
真赤な夕日に送られて、車内は和やかな笑顔でいっぱいだった。



春の野を歩き 山菜を食べる会に参加して

土田 君男

四月も下旬と云うのに朝方雪が降り寒い朝の出発となりました。マイクロバスに乗り山に向つて車中賑やかに蓬平温泉から萱峠を目指し、途中で、あけびの芽やコゴメ、フキノトウ、コシアブラ、竹の子も五、六本見つけました。夢中で採つていたらいつの間にか天気も回復し青空を渡る風もすがすがしく青空が出てきました。目指す萱峠は道路にまだ雪が残り断念し、小日向会長の自然観察との事でブナ林に入り、いろんな春の新芽等の説明を聞き散策する。道路にシートを敷き、皆さんが途中で採つた山菜汁を頂き本当に美味しかった事が思い出さ



れます。帰りに南蛮山の峠を越え絶景の長岡を一望し、皆さんの汗と努力の八方台の植樹地を視察して帰路に着く私は停年を過ぎ早三年、退屈の日々を過ごしている時、金子副会長に出会った。山野草の会に入会し、三月には雪割草の里を訪ね八方台の植樹、蒼紫神社の植樹、関原のドングリハウスの手入れ等、私にはどれも新鮮な事ばかりです。

只、私には腰痛の持病があり、あまり重い物等、腰に負担の掛かる事が出来ず皆さんにご迷惑をおかけしますけれどもこれからも皆様のご指導を受けながら頑張りますので宜しくお願ひ致します。

いのちの森再生—『蒼紫の森植樹』

(1) 社団法人長岡法人会支部長	宮下 嘉久 様
(2) 新潟県議会議員	松川キヌヨ 様
(3) NPO 法人献血友の会理事長	佐藤 守 様
(4) 長岡市議會議員	高野 正義 様
(5) 長岡市議會議員	笠井 家老 様
(6) 長岡市議會議員	笠井 則雄 様
(7) 植樹 説明	植樹 (10 : 00)
(8) アカガシ、ウラジロガシ、シラカシ、シロダモ 200 本	青空シンボジュウム (10 : 40)
(9) ふるさとの自然やいのちの森づくりと緑への思いを語る)	社叢林の自然観察会 (11 : 30)
(10) 小林 教	閉会挨拶 (12 : 00) 副会長
(11) 來賓紹介	(4)



森市長のご挨拶

式 次 第	日時 平成16年6月6日（日）・9時30分開会	場所 長岡市悠久町	3
次第	蒼紫神社社叢林および市公園用地	総合司会	副会長 金子 久信
次第	蒼紫神社宮司	開会	挨拶と激励
(3)(2)(1)	①蒼紫神社宮司	(9 : 30)	会長 小日向
②長岡市長	森 永井 康雄	会長	直人 孝
③県・長岡地域振興課長	小川 民夫 様	会長	直人 孝
④東北電力長岡営業所所長	三浦 幸雄 様	会長	直人 孝
様	様	会長	直人 孝



森市長と小日向会長



早く大きくなってよ

悠久山公園は、我々市民にとつて先人が残してくれた宝物です。その一角に「どんどんぐりから育てて森を造る」大きな夢の実現を今後ともお手伝いしなければと改めて感じた一日でした。

「守ろうよ この木 この森 この地球」のスローガンが標された杭を中心に、蜘蛛の巣にも雑草にも負けずに一回目から今年までの若木がまるで兄弟が成長を競つてゐかのように根付いていました。処々に植樹者の名前と年月日の立札があり五年間の歩みを感じました。

た十月上旬、神社の社務所の方にお声掛けをし、植樹現場を訪ねてみました。

薔薇の森の植物
大浦方 悅

「観察」するといつこと

野口 直意

「みる」という言葉をワープロで漢字変換すると見る、観る、診る等、幾つか候補が出現してきます。国文学者であつたなら自然にそれらの使い分けが正しくなされるでしょうが、一般の方はあまり意識せず、ともすると全て「見る」で済ませてしまうなんてことにもなりかねません。

「見る」はLook *at*ないしはWatchであり、あえておおげさに訳すと「凝視する」「注目する」となります。それに対し「観る」はSee又はLook around「眺める」「見渡す」です。

「観察」という言葉には後述の「観る」が使用されています。それには大変深い意味が込められています。また、「診る」は~~explore~~又はLook around「眺める」「見渡す」で、ある結果を導くために探査する為の見るであり、「凝視する」よりさらに多角的詳細な見るが要求される「見る」です。

場合によつては、眼で見ることが逆効果となり誤った結果を生む可能性をも配慮し、目視だけでなく、音波、温度、X線、電磁波、試薬等を利用して検査を行い結果を導くことを意味します。

「観察」の「察」は「考える」という意味です。日常よく使用する文句に「相手の気持ちを察して」などという使い方をします。「観察」という言葉から考えられる定義は、「対象物を観てそして考えなさい」が適当と思われます。この場合の「考え」というのは想像力のことです。そしてその想像力を生む源となるものがより多くの知識の集積と実体験です。その為に私たちは「学びの旅」、「春・秋の実体験修修」を企画し、それらの活動を通じて想像力を研ぎ澄ますための自己啓発を行つているのだと言えます。では何故、「観察」が「見察」ではないのでしょうか。同じ「見る」のであつたならばやつと眺めるより良く注視した方が良いと思われるがちですが、その答えは皆さんの良くご存知の諺「樹を見て、森を観ず」の如きです。

意味に託されています。
良くな見ることはより幅広い想像力を生む源として、知識の集積は不可欠ですが、「観察」する場合それが先行してしまうと、心理性に「思い込み」が起こり、自由な想像性の妨げとなる場合があります。すると劣化していくことも多くして常に先人の理論を超える斬新な発想は生まれません。私の思う「観察」とは「対象物の輪郭（大局）を捉え、一般化して何故を導き考え方」ということだと思うのです。

例え、一例をあげるならば私たちは小日向先生から「森のシステム」について学んできました。森の主要構成種の森林高木層、森林亜高木層、森林低木層そして森林マント群、さらに袖（ソデ）を構成する多様な植物群。それはおよそ全国どこの自然林を訪ねても樹種の違いはあっても森の構成立ちそのものは変わらないのです。

$y=F(x_1, x_2, m, s)$
y: 自然林の全体像
 x_1 : その地域の主要構成樹種
 x_2 : その地域の主要構成樹種に従属する樹種
m: マント群落を構成する樹種群
s: ソデ構成する植物群

と表現されるものが小日向先生の理論です。すると逆もまた真なりで、どこの地域であつても特別な事情のない限り x_1 と x_2 が特定できたらおのずと y : 自然林を再現（再生）できるわけです。小日向先生はよく x_1 を「親分」「子分」という表現で説明されますが、私は x_1 、 x_2 を「先発」「リリーフ」かなと思つたりします。それは、それぞれの観察者の発想力と感性の問題なのでどちらもかまいません。むしろ観察者に x_1 、 x_2 をどう定義させるかというのも「観察」のポイントです。

（参考仮説）

a 防寒着説：小日向先生
b キャバレーの呼び込み説：野口

△: その地域の主要構成樹種は、温量指数（暖かさの目安）と地形（地質）による水分量の加減により容易に求められるし、そこで現地で観察すれば一目瞭然です。

m: マント群落を構成する樹種群

s: ソデ構成する植物群

を導いて、それを検証することにより自然林回復の実践活動を積み重ねてきた背景には私たち会員の想像を越える「観察」とそれにより生じるデータの蓄積、数々の何故の積み重ねによる結果であることを忘れてはならないと思います。私たちが蒼紫の森にカシを植える行為も八方台にブナを植える行為も全て

$y=F(x_1, x_2, m, s)$

の方程式に基づいている行為である事をきちんと認識し、まず中越地区における自然林については観察会のなかで

$y=F(x_1, x_2, m, s)$

を正しく参加者に説明できることが重要です。

今年、新たに自然観察指導員が数名誕生しました。「観察」の「観」だけでは済まさず「察」を活かす自然観察会が多数行われることを期待いたします。まず門出の祝いとして、新たな自然観察指導員の皆さんに観察のテーマを贈ります。

「森は何故マントを羽織っているのか?」この何故に対しても新たな自然観察指導員の皆さんはどうんな自説（仮説）を立て、それを検証する為にどんな「観察」を行いこの何故の答えを導いてくれるのか考えてみてください。

自然観察指導員に登録

○野口 直意

○小林 教

○鈴木 千代枝

○半田 司

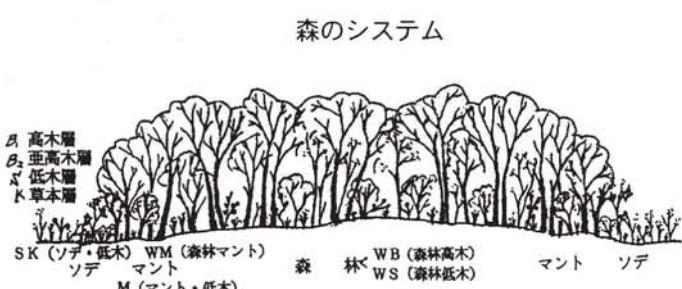
○八子 貞夫

○池野 宏子

○野口 直意

今後会の活動に貢献して

頂く事を期待致します。



地域に根ざした自然観察会を開き、自然を自から守り自然を守る仲間をつくるボランティア・リーダーとして養成講座を次の方が受講して、日本自然保護協会に登録されました。

学びの旅 2004合宿研修 一佐渡の旅一

■期日七月十七日(土)～十八日(日)
■主なコース
十七日

寺泊赤泊
赤泊港
五所神社
佐渡植物園(度津神社)
田切須ヤブツバキ林
小布勢神社社叢林
長谷寺
乙和池
旅館



解散
長岡駅東口
新潟港
兩津港
羽吉の大桑
ドンデン山
二ツ亀
熊野神社のタブ林
十八日

中・下越を襲つた「七・一三水害」の疲労や生活上の不安から徐々に落ちきを取り戻しつつある出発の前日に再び大雨洪水警報が出され、各地で土砂崩れや河川の増水が相次いでいる様子がテレビで報道されている時だけに何かと肩身の狭い気持ちと不安の中での「佐渡の旅」。三十七名の申込みがありましたが当日の参加者は三十四名。二台のクルマに分乗して長岡駅東口を午前八時予定通り出発しました。寺泊港よりフェリーで赤泊に向つて出航した途端に大波と突風に襲われてしまい、お酒の力で睡魔が来るようになると祈り続けました。赤泊に到着してから風雨がおさまり、五所神社～佐渡植物園へと予定通り順調にスタート。小布勢神社社叢林ではヤブツバキ林を中心とした植物群落の調査を小日向会長のリードで高木層～低木層等に分類。貴重な体験を致しました。大佐渡スカイラインから乙和池に向かう途中から激しい雷雨に再び遭い、ブナの大木がミズナラと混交するところは有志だけの見学となりました。午後六時頃こじんまりとした素敵な宿「道遊」に到着。一風呂浴びた後、待望の宴会。半田さん、小林さんなどのかくし芸や歌などとつても楽しいひとときでした。宿を七時四〇分に出発。二ツ亀～熊野神社を経てドンデン山で水たまりと牛の粪を避けながら大きなシートを敷いて食べた弁当がとても素朴で忘れられない思い出となりました。

夏の合宿「佐渡の旅」

恩田 清

「山野草をたずねる会」に入会して

山澤 博美

私は、昨年十月頃、八方台の植樹に参加がきっかけで、今年四月から主人と一緒に山に入ります。山菜より山の草花の方が好きでしょうか、山の草花は、小さな花ややさしい感じで、名前もわからないものが多いですがとてもかわいらしい感じがします。

主人は、山菜を取りに行くのが好きで、朝早く出かけます。わらびやらうど、きのこ狩りにも行きます。私も主人について山に入ります。山菜より山の草花の方が好きでしようか、山の草花は、小さな花ややさしい感じで、名前もわからないものが多いですがとてもかわいらしい感じがします。

この間、会で佐渡に連れて行つてもらいました。船の中は、ひどい船酔で大変でしたが、とても楽しかったです。ヤブツバキを生活の中にうまく利用して、風よけにしたり、大きな樹木を見れて良かつた。それと正直なところ雨の中でも、乙和池の浮島を見学に行く時は、霧がふかく道中は、ちょっと心配でした。行つてみて、池の渕から浮島は緑色できれいで、もつと成長していくのかと思うと自然つておもしろいと感じました。

また主人と参加させていたぐかと思います。まだまだ勉強不足です。木々の事も良くわかりませんが、よろしくお願いします。

NPO法人の認証を受けて

金子 久信

平成十六年六月三十日、県庁内の環境部県民生課、社会活動推進係という長い肩書きの窓口が「NPO法人」申請の受付場所であった。

当会の丹念に作成した書類を二人の職員は一字一句通読、正誤性を確認後受付は終了する。公示期間後「認証」されるでしようとあまりにも簡単な受理に少々呆然となる。

しかしその背景には「認可はしますよ」でも「NPO法人としての活動は厳格に」という言葉が返ってきた様な気がした。

さて喜ぶべき平成十六年十月十二日、無事県知事より「認証」はされた。会には先輩諸氏の築いた二〇年余りの活動実績がある。会員も絶えず一二〇〇三〇名。綿密な年間計画と明朗な決算報告等は間違いなく評価されたものと思う。

「認証」受理に際し、再度NPO法人として設立の必要性を確認してみたい。「理念とか目的の実現には活動を継続しなければなりません、資金が必要です。会費だけではやつていけませんから、各方面に助成金や協賛金をお願いすることになるでしょう。世間から信用されることになるでしょう。世間から（平成十五年「かしのみ」より）

木を見て森を語るな、という言葉が

木・林・森に想う

半田 司

の木を見て森を語るな、という言葉が語つていて気がする。以前は海釣りやボート、所謂海に趣味を求めてきた。しかし、ある時期から山歩きや登山の楽しさに魅せられることになり、すっかりはまつてしまつた。元々木や植物には興味はあつたが、この会に入会したりわけ木や林に何故か恐怖や畏敬の念さえ覚えるようになつた。そんなことが環境問題にも多少なりとも目を向けるきっかけになつたのも事実である。今後我々会員は従来の活動とそれ程変わるものではないが、NPOの法人格としての活動をして行くことになる。会員の一人一人が、そのことを自覚し協力、助け合いの精神で諸事業等に当たつて行かなければならぬと思ふ。何分、業務分担は充実しているとは言えないし、不足な面が多くあるのも事実である。

これら徐々に一つひとつ補つて、他所から信用と信頼に値する活動を目指して行きたいと思つてゐる。そして私自身これからは小さな木から数百年後の林や森にロマンを馳せ、大げさに言えば後世と子々孫々のため微力ながら、諸々の行事や作業等に積極的に参加したいと思う昨今である。

秋の野に学ぶ

渡辺 ゆき子

10月2日野々海高原にて「秋の野に学ぶ会」が行われました。長岡駅東口八時出発。お天気に恵まれ参加者22名、楽しい秋のひとときを満喫しました。



現地に着くなりキノコ採りの名人達はおさるさんの如くヒヨイヒヨイと山の中へと分けいつて行きました。(中にはまわりのブナ林の美しさに心を奪われている者もいましたが……)収穫を手にして戻つて来た後は、ブルーシートに大きな輪を作り小林さん特性味付けのキノコ汁に舌鼓をうち金子さん差入の越の寒梅にほろ酔い気分。さわやかな秋風を頬にうけ和やかなランチタイムとなりました。

さていよいよ採集してきたキノコの識別鑑定。小日向会長の豊富な知識に感心しながら一同説明に耳を傾けました。自然の不思議、神秘がつまつためずらしい色や形のキノコや、みそ汁にもつてこいのおいしそうなキノコ達。たくさん地面に並べられました。終了後分けていただきお土産に持ち帰りました。知識を頭につめこんだ後は各自周辺の散策観察等自由時間を過ごしました。知識を頭につめこんだ後は各自にかけ回つた人。かわいらしい草花に目を細めた人。ヤブの中で一人不安になつた人。いろんな思いを胸に話に花を咲かせるバスの中でした。



いのちの森再生 八方台植樹

今年の八方台植樹を明日に控えた十月二十三日(土)午前九時。小日向会長はじめ、会員十五名が準備のため八方台にむけて出発しました。

当日は、比較的好天に恵まれて苗木の配置には多少手間取つたものの、横断幕や会旗の取り付け、会場設営、メントの仮組み等順調に作業が進み、準備も完了させて午後四時過ぎに山を下りました。

しかし、午後五時五十六分に忘れもしない震度六強の新潟県中越地震が起きたのです。

私たちは途方に暮れてしましました。協賛して頂いた多くの善意ある方々や購入した苗木や借物を無駄にする訳にいきません。



小日向会長は決意しました。二五日目に車二台三名で現地におもむきました。通常は二十五分程度で行けるところですが、柄尾市軽井沢経由で安全を確認しながら、現地に到着したのは二時間半後の十一時頃でした。

昼食もそこそこに借物整理・会場撤去・植樹と三人には手に余るほどの作業でしたが、今年の植樹事業を終了しました。

必死の覚悟は忍耐とチームワーク・作業は延々と真暗になるまで続きましたが、火事場の馬鹿力ではありませんが、地震の馬鹿力でした。帰路は死の行軍：道路の地割れはひどくなり、路肩は下がり波打ちいまにも崩落の危険がありました。

往復共正に死の恐怖を覚えた一日でした。

ドングリハウス裏のアシの撤去及び、



(ススキ撤去)

整地を6月2・3日両日をかけて行いました。それにより今まで放置していました。ただのアシ原を有効的に活用できます。更に簡易トイレを設置いたしました。女性会員の方にも気がねなくドングリハウスを訪ねて頂けるものと思います。さらに、用具庫等順次施設の整備充実に努めていきたいと思います。さしあたり、現在、ニンニク、アサツキ、菊、苺を作づけしています。

会員の積極的な土地活用アイディアを募っています。

来春には自然の恵みの体験が楽しみです。

ドングリハウス

ようこそ！ 新入会員名簿

		名前	住所
笠井 則雄	須藤 美保子	若山 章子	与板町
恩田 保子	恩田 清	横山 瞳子	長岡市宮内
土田 君男	山沢 博美	大竹 圭子	長岡市江陽
高橋 正博	佐藤 元美	五十嵐 恵子	長岡市水梨
角山 美恵子	佐藤 美麗子	星野 勝男	長岡市信濃町
山沢 千手	中元 未知子	星野 織枝	長岡市宮内
山沢 千手	佐藤 玲子	星野 勝男	長岡市宮内
山田 千手	中野 彩子	米山 多賀彦	長岡市春日
山田 千手	佐藤 美惠子	中野 勝男	長岡市宮内
高橋 ムツ	佐藤 元美	長岡市中沢	長岡市大島
角山 正博	高橋 ムツ	中元 麗子	長岡市青葉台
越路町浦	長岡市千手	佐藤 美麗子	長岡市関原
長岡市上除	長岡市山田町	中野 彩子	長岡市中沢
長岡市宮内	長岡市台町	米山 未知子	長岡市大島
長岡市花園	長岡市山田町	星野 織枝	長岡市宮内
長岡市三和	長岡市千手	星野 勝男	長岡市宮内

平成16年度活動報告

特定非営利活動法人(NPO法人)

新潟県山野草をたずねる会・植生研究会

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

◎足元の自然環境に学ぶ

- ・植生生態学的な自然の理解と認識を深める自然観察・調査・視察及び研修活動
(エコロジカルとピオトープ自然観の確立)

◎本物の緑環境の保護保全回復活動を通してのちと心を育む—<生やし・育て・植える>

- ・潜在自然植生構成種の実生育成運動(ドングリ育苗)
- ・250年のいのちと心を植えるふるさとの森(いのちの森)の植樹再生活動
(持続可能な環境の再生と共生、自然と調和するまちづくり)

◎自然に親しみ健康で人間性豊かな生活の追求

- ・森や自然の恵みと心の癒しを体験する活動
- ・会員の親和向上を図る活動

◎関係団体との協力関連、支援、交流活動

◎広報・研修活動—機関紙(かしのみ)の発行・調査・講演会等の開催

1 早春の山野草を訪ねる会兼総会

- ・期日 3月28日(日)(29名) ・国上山・間瀬方面 ★レンタカー使用

2 春の野を歩き山菜を食べる会

- ・期日 4月25日(日)(24名) ・萱峠方面 ★レンタカー使用

3 みどりを育てる会—潜在自然植生が生育する本物の緑環境のまちづくり『ふるさとの木によるふるさとの森』—『いのちと心』を植えるいのちの森づくり(育苗・育樹・植樹)

① ドングリハウス管理定例日・自然観察会

- ・4月11日(日)14名・5月1日(日)10名・6月5日(土)8名・7月10日(土)8名
8月7日(土)8名・9月12日(日)11名・10月23日(土)12名・12月4日(土)

② 樹木播種・ドングリ

③ いのちの森=ふるさとの森再生

1 蒼柴の森—悠久山公園・蒼柴神社叢林

- ア 植樹 ・6月6日(日)160名 ・前日準備6月5日(土)9名・8月7日(土)8名
・協力団体—東北電力長岡営業所・長岡法人会

イ 育樹 ・5月22日(土)9名・6月1日(火)3名・7月13日(火)14名

2 八方台の森—いのちの森再生八方台植樹一千手の森—みんなでつくるふるさとの森

- ア 植樹 10月 ・前日準備12名 ・独自事業・市民運動

イ 育樹 ・5月30日(日)26名

④ 関原ぬか山会連携植樹

⑤ にいがた緑の百年物語関係 ・4月29日(火)不参加

4 観察会兼合宿研修(エコツアー)〈合宿研修〉 ★レンタカー使用

- ・方 面—佐渡 ・期日 7月17日(土)~18日(日)34名 ・下見5月7日(金)

5 秋の野に学ぶ(キノコの識別・ドングリ拾い・観察会) ★レンタカー使用

- ・期 日 10月2日(土)22名 ・方面—野々海

6 学び合う会及び祝賀会

- ・期 日 12月11日(土)

・場 所 長岡市表町3-2-3「割烹まる山」☎32-1075

- ・内 容—・特定非営利活動法人(NPO法人)設立祝賀会及び学び合う会

・講演 理学博士 藤原一絵先生 横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

・各種成果の発表(写真・詩・キノコ・環境・生態ビデオ他)

7 機関紙の発行

- ・第19号

- ・期 日 12月11日(土) ・内容(活動のあしあと、感想など)

8 各種連携 ・市環境フェア 9月25日・26日20名 ・献血友の会募金活動 8月3日7名 9月12日7名

9 その他

- ①研修の充実—・学習会・講演会の開催 ・NPO研修5名参加・研修講演会 10月5日(日)会員一般40名

- ②会主催の一般・小中高生を対象とした観察指導会の開催と要請に対応

編集後記



おめでとうございます!!

この度当会理事長小口向孝氏が日本樹木学会より
「大勲位樹木文化功労章」
を受章されました。

このたびの「中越地震」で被災された会員の皆様には、心からお見舞い申し上げます。この地震で私たちが日々植樹活動をされているタブノキ、カシなど垂直に根を付ける木々は地震に強いことを再度知ることが出来ました。七月の水害、十月の地震と災害の多い年でありましたが、会員の方々より積極的に原稿を寄稿して頂き、ご協力に感謝申上げます。(渡辺・小林・金子)